［課程-2］

審査の結果の要旨

氏名　　疋田　直子

本研究は、モンゴル国ダルハンオール県において、妊娠 20 週未満と思われる妊婦とそのパートナーを対象に質問紙と尿中コチニンを用いて受動喫煙を評価したものである。質問紙調査と尿中コチニンレベルでそれぞれ評価した喫煙・受動喫煙率を明らかにすること、妊婦の自覚による受動喫煙が尿中コチニンレベルで評価した受動喫煙と一致するかどうかを明らかにすること、尿中コチニンレベルで評価した妊婦の受動喫煙に関連する要因は何かを明らかにすること、妊婦の尿中コチニンレベルとパートナーの尿中コチニンレベルが相関するかどうかを明らかにすることを目的とし、下記の結果を得ている。

1. 自記式質問紙調査による自己申告による妊婦の喫煙率は 5.5%、受動喫煙率は 60.9%であったが、尿中コチニンで評価した喫煙率は 13.2%、受動喫煙率は 44.4%であった。
2. 妊婦の自覚による受動喫煙は、尿中コチニンで評価した受動喫煙との相関が弱く（スペアマンの ρ =0.113, p=0.020）、また一致しなかった（K係数=0.073、p=0.115）。
3. 妊婦の受動喫煙に関連する要因は、年齢が低いこと、学歴が低いこと、家庭内での喫煙を認めていることであった。
4. 妊婦の尿中コチニンレベルは、パートナーの尿中コチニンレベルと弱い相関があった（スペアマンの ρ =0.249, p<0.001）。

以上、本論文は、発展途上国で初めて妊婦の喫煙・受動喫煙状況を、尿中コチニンを用いて明らかにした点において貴重な研究である。本研究はこれまで明確に示されていなかったモンゴル国における妊婦の喫煙・受動喫煙状況を明らかにし、喫煙している妊婦は正しく喫煙状況を医療者に申告できないこと、また、質問紙調査で評価した妊婦本人の受動喫煙の自覚では、実際の受動喫煙状況を正確に測定できないことを明らかにしたことから、臨床現場において、喫煙・受動喫煙状況を質問紙等で評価する際には注意を要することを示した。また、上記の理由により、喫煙や受動喫煙をしていると自己申告した妊婦だけではなく、すべての妊婦に対して妊娠中の喫煙・受動喫煙の害について教育をしていく必要があることを示した点において、今後の妊婦指導の在り方を考える上で重要な貢献をなすと考えられ、学位の授与に値するものと考えられる。